

第 2 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

●日 時：令和元年 5 月 16 日（木） 10：00～12：00

●場 所：土浦市役所 3 階 庁議室

●出席者：

[有識者会議委員（13 人）]

大澤委員長，佐野副委員長，富田委員，完賀委員，原田委員，鬼澤委員，長島委員，森委員，眞山委員，佐藤委員，松山委員，畠山委員，池田委員

[土浦市（10 人）]

五頭副市長，井坂教育長，船沢市長公室長，望月総務部長，小松澤市民生活部長，川村保健福祉部長，塚本都市産業部長，岡田建設部長，羽生教育部長，飯村消防長，

●事務局：山口政策企画課長，渡邊政策員，小川政策員

●配布資料：

資料 I - 1 第 1 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

資料 I - 2 第 1 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について

資料 II - 1 第 2 期土浦市まち・ひと・しごと「人口ビジョン」（素案）

資料 II - 2 土浦市将来の人口ビジョンに係るアンケート調査実施要領（案）及び調査票（案）

参考資料 1 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱

参考資料 2 地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定に当たっての参考資料（抜粋）

1 開会

【事務局説明】

- ・所属組織の人事異動により伊藤委員，菅谷委員，山田委員，山岸委員が辞任された。
- ・所属組織から推薦された佐藤委員，畠山委員，池田委員，長島委員が新しく委員となった。

【新規委員の自己紹介】

2 委員長あいさつ

- ・昭和の終わりから平成の最初の頃は，ふるさと交付金 1 億円があった。今回のまち・ひと・しごとは，平成の終わりから令和の始まりの取組である。
- ・前回と異なるのは，国際競争が激しくなっていることである。その中で，東京等の一部の地域だけでなく，地方も活性化しないといけない。
- ・本日の会議では，人口ビジョンについて議論したい。

3 報告事項

(1) 第1回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録について

【事務局説明】

(2) 第1回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について

【事務局説明】

【委員】意見なし

4 議事

(1) 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(素案)について

【事務局説明】

【委員】

- ・国は2060年に総人口1億人を確保したいと言っているが、国の上積みの目標に合わせて、土浦市としては、どれくらいの人口を確保したいのか。
- ・素案では、8地区別の人口分析を行っているが、大規模造成を行った地区は人口増加しているなど、地区によって人口変化の原因が異なると考える。
- ・土浦市では、シティプロモーションの動画をホームページで公開しているが、それでは一般市民が見るとは限らない。地区のコミュニティセンターで上映会をしたらどうか。土浦から出ても、いずれ戻ってくれるのではないか。日立では、映画館で予告編が流れるときにシティプロモーションの動画が流れていた。水戸等で土浦の動画を上映できれば、茨城県から土浦に呼び込むことができる。また、東京の方々を呼び込むのは難しいと思うが、首都圏の東京以外の県や、近隣の市町村で上映できるとよい。
- ・将来人口のシミュレーションの中で、人口ピラミッドなどに関して、世帯数の将来推計を何か示せないか。

【事務局】

- ・本市の将来目標人口については、将来人口の分析及びアンケートを実施した後に、総合戦略を立案する過程の中で、人口減少を抑制するための施策を検討し、その施策で見込まれる結果を見据えて目標人口を設定するため、今後議論することになる。なお、第1期の総合戦略では、2060年の目標人口を108,500人とし、17,000人の上積みをする事とした。
- ・人口ピラミッドへの世帯特性の反映については、検討したい。

【委員長】

- ・地区ごとの議論はあった方がいい。施策を地区レベルまで落とせるといい。
- ・世帯数の推計は、なかなか方法がない。国立社会保障・人口問題研究所で世帯数を推計しているのは筑波大学の卒業生なので、聞いておきたい。

【委員】

- ・社会減の人口が縮小している。要因が掴めれば、今後の施策の参考になるので、分かれば教えて欲しい。

- ・昼夜間人口をみると、昼間の方が多いとのことであるが、定住人口を増やして、経済活性化につなげたい。定住人口をどうやって増やすのか、また、手伝えることはないかお聞きしたい。

【事務局】

- ・様々な要因が関係して、社会減の人口の縮小が起きている。中心市街地に市役所やマンションが立地し、常磐線が品川までアクセスするようになったのも関係しているのではないかと。今後も、分析を行いたい。

【委員長】

- ・夜間人口の増加は、税収の増加にもつながるので、着実に施策を進めたい。

【副委員長】

- ・女性の就業者が増えているとのことだが、正規雇用者数の割合は4割に留まっている。自らが望んだ結果なのかどうか。アンケートでは子育て世代にも質問するようなので、今後分かれば教えて欲しい。

【事務局】

- ・女性の社会進出が進んでいる中で、非正規雇用者数が多い。望んだ結果なのかどうかという質問だが、アンケートの中に設問として追加するかどうかは、検討したい。

【委員】

- ・家庭に入ると時間の都合で正規雇用者になれない。例えば、役所の女性でも、早く帰宅して家事をやらないといけない状況がある。それが数字に出てきているのではないかと。

【委員長】

- ・女性は期待されているので、国と地域でやることを分けて、地域ができることを考えたい。

【委員】

- ・素案 P.56 の人口変化が地域に与える影響について、様々な影響が懸念される点が記述されているが、人口減少に伴う問題は、懸念ではなく、既に起きていると思う。
- ・水も空気も維持できるとは考えていない。例えば、水道や下水道は老朽化が進んでいるが、税収は減っていく。もっと問題として採り上げないといけない。
- ・私の住んでいるところでは、3軒に1軒の空家があり、空家に空き巣が入るなどの問題が既に起きている。この問題について、市役所ではどう対応しているのか。

【事務局】

- ・市内の空家の現状としては、市役所では、現在問題になりそうな空家を把握しているが、相続されていない建物、相続しているが管理されていない建物が増えている。
- ・空家への対応としては、市役所では、空家等対策計画を策定し、これに基づき、各種施策を実施している。具体的には、特定空家を認定し、法律に基づいた対応をしているが、空家は、個人の財産であることが前提なので、行政がどう関わっていくのかは、どこの市でも課題となっている。

【委員】

- ・地域コミュニティを再生するのはなかなか難しい。市役所も様々な手を打っていると思うが、今後も継続して取り組んでいかないとはいけない。

【委員】

- ・東京に人口が流出するのはやむを得ないとして、その抑制をどうするのか。守谷市やつくば市は転入超過となっている。土浦市との違いを捉えて、通学通勤がしやすい環境づくりなどをすることで、空家対策や夜間人口の増加につなげていく。土浦市だけではなく、国や近隣市町村と連携して取り組んでいかないといけない。

【事務局】

- ・つくばエクスプレスが開通して、大規模宅地造成が行われたところは人口が増えているが、それ以外の県内の市町村は減少している。本市としては、コンパクトシティの考えの基に中心市街地にインフラを集めること、常磐線の利便性を向上することなどを更に図っていききたい。

【委員】

- ・市町村の戦略は、県のものを参考にして策定することになっている。今年の6月に国が基本方針を発表するので、それを踏まえて茨城県も戦略を作成する。10月には骨格を示したい。
- ・65歳以上人口の東京圏からの転入が多いとあるが、東京圏に近いという地理的優位性を踏まえて、65歳以上をどんどん受け入れていくことを打ち出す方向性もあるのではないかと。また、自然減対策もなんとか打ち出したい。県の戦略としてどこまで書き込めるか分からないが、しっかり対応したい。

【事務局】

- ・第1期の総合戦略では、アクティブシニア層の転入を促す施策を位置付けている。第2期でも検討したい。
- ・自然減にも注目して、施策を打っていききたい。

【委員長】

- ・自治体間の協調も考えていかないといけない。銀行などもリーダーシップをとって広域連携をやっていく必要がある。

(2) 土浦市将来の人口ビジョンに係るアンケート調査の実施について

【事務局説明】

【委員長】

- ・前回のアンケートの結果と比較することも考慮して設問等を設定している。追加したい設問はあるか。もしあれば後日連絡して欲しい。

5 その他

【事務局】

- ・次回の有識者会議は、8月20日火曜日の午後1時半から庁議室で開催したい。

6 閉会

以 上